

◆2024年 中学入試算数【聖光学院中学校】 講評

ワンダーファイ代表・川島

例年通り、小学生である受験生にとって無理のない範囲で、中学受験算数で学んできた知識をもとに試行錯誤したり、抽象化したりする力が求められています。また「考えられるものをすべて答えなさい」という出題が近年多くなりましたが、今年もそのような出題が目立ちました。そういった出題形式を含め、同校は、限られた時間の中で受験生が取り組みやすく、選抜試験としても機能しやすい点にとっても工夫しているように見受けられます。さらに、他の学校がこれまで出してこなかった新しい問題もしばしば出題されます。

今年に関しては、それは大問5でしょう。

売上を表した折れ線グラフから、増減の割合を表すグラフを選択したり（１）、その逆があったり（２）、情報を元に言えることをすべて選択する、というような問題です。割合という概念を正しく身につけているかを高負荷ではなく試せる、面白い問題だと思いました。他にも、大問2のような、全く同じ設定をほとんどの受験生が解いたことのないような設定の整数問題も聖光が好んで出題する問題だと思います。